

# 東アジア レビュー

2024年3月号

[HTTP://EARI.JP/](http://EARI.JP/)

- 【視点】 韓国は「主敵」「交戦中の2国家関係」  
そう規定した北朝鮮の意図は？ …1  
姜英之
- 【南の窓】 10日間で消えた「第3極」の夢  
大統領の支持率は4割台に回復 …3  
編集部
- 【北の窓】 コロナ禍明けまずロシアから観光団  
…5  
編集部
- 【寄稿・随筆】 日本就職を目指す韓国人の強みとは？ …8  
東北亜未来構想研 理事 堤一直
- 【編集後記】 新刊紹介「金正恩の革命思想」  
平井久志 著 (作) …10

# 【視 点】

## 韓国は「主敵」「交戦中の2国家関係」

### そう規定した北朝鮮の意図は？

姜英之（東アジア総合研究所理事長）

#### 祖国統一3大憲章記念塔撤去の衝撃

朝鮮半島で南北間の軍事緊張が高まり、一色触発の戦争危機が迫っている状況については、本誌2024年新春合併号の巻頭言で警鐘を鳴らしたが、今号においては、近年、核・ミサイル発射実験を頻繁に繰り返している北朝鮮の金正恩政権が過去とは異なるアプローチをしている対外政策、対南政策の転換について考えてみたい。

ロシアのプーチン大統領のウクライナ侵攻に関して核攻撃も辞さずとの発言は、韓国との激しい軍事対立を続ける金総書記への肩を押した。通常兵器では韓国に劣る北朝鮮にとって対南軍事戦で勝利するためには核・ミサイルを動員しての非対称戦争しかない。金総書記は、南北有事の際には、先制核攻撃を行わないが核攻撃を辞さないとし、その際には、「南朝鮮の全領土を平定する」とまで公言している。これまで歴代指導者が主張してきた南北平和統一路線を捨て武力統一を行う、との意志を隠していない。

ここで注目されるのが昨年末の労働党中央委員会拡大総会と今年1月の最高人民会議で金総書記が韓国に対して「主敵」「交戦中の2国家関係」と規定したことである。金総書記の祖父であり、建国の父である故金日成国家主席が提唱した南北連邦制統一方案は、2代目の父・金正日総書記も引き継ぎ、金正恩政権も否定はしてこなかった。その核心的中身は、南北分断が東西冷戦の産物であり、同族殺し合いの朝鮮戦争の残

酷な経験から、両体制を相互に認め、同じ民族同士、対話と交流を通じて平和的に連邦制統一を成し遂げようとするものであり、南北関係については「国と国との関係ではなく、統一を志向する過程で暫定的に形成される特殊関係である」（南北基本合意書 1992年2月発効）ことに合意し、完全な1体制統一国家までは同族同士共存するという民族優位の思想、理念が貫かれていたのである。

それなのに、今、韓国に対し、「同族とみなさない」と他民族扱いし、民族概念より国家概念を優先させ、まるで韓国がほかの外国と同じ外国と断じたのは、対南政策の大転換と言ってもよい。韓国の尹錫悦政権が米国との軍事同盟強化に傾き、北の対南攻撃は、「北朝鮮の終焉」と、米韓による核反撃で北を全破壊するという恫喝、強硬な姿勢に対する尹錫悦政権という反民族傀儡政権への憎しみのあまり発出された一時的な衝動的反応とみられないこともない。

将来、文在寅前政権のように北追従の革新政権が現れれば、北特有の弁明で再び民族優先の論理を持ち出すことは十分あり得る。そうだとすると、建国の父、金日成国家主席が提示した統一3大原則（1972年）や高麗民主連邦共和国創立方案（1980年）、全民族大団結10大綱領（1993年）など、全人民と全世界に約束した統一の原則を記念して、父親の金正日総書記が肝いりで建てた平壤中心部の祖国統一3大憲章記念塔を「無様に立っている」とののし

り撤去させたのを見ると、これは一時的衝動からのものではなく、統一問題について本心からの祖父、父親からとの決別を意味する衝撃的事件ととらえる方が自然かもしれない。

その要因は、第1に、金総書記が、本当に米韓との戦争を決意しているからと分析される。第2に、長く続いた経済困窮に人民の不満が募り、その矛先が政権に向けられるかもしれないという危機感の状況が考えられる。

外信によれば、脱北者の話として北の住民の間で、韓国のK・ドラマや文化情報に接する機会が増え、韓国にあこがれて北脱出を試みる雰囲気があるというのは、あながち信ぴょう性がないわけではない。人民の不満をそらすには、南北間の軍事緊張状況を高めるのが効果的だ。実際の戦争に備え、核・ミサイルの多様化、高度化に余念がなく、米韓とのきわどい軍事的緊張を作り出すのもそのためだ。

### **岸田・金正恩首脳会談の可能性**

岸田文雄首相は、政権出発当初から、日本人拉致問題の解決を最優先課題と公言してきた。拉致被害者家族からの突き上げもあって、岸田首相は自らの直轄ルートで金正恩総書記との首脳会談を通じて解決すると大見えを切ってきたが、北朝鮮側は切ってきたが、北朝鮮側は「拉致問題は解決済み」として無反応で、なしのつぶてであった。ところが、今年1月の能登半島地震の被害に対する金総書記の見舞い電報が波紋を呼んだ。岸田首相に対し、「閣下」という最大級の尊称が使われたからだ。

これを受けて2月9日、岸田首相が国会で三度「トップ同士の関係を構築したい」と述べるや、金総書記の意を呈した実妹、金与正党副部長が談話を通じて首相の平壤訪問に肯定的に反応、「関係改善の新たな出口を切り開いていく政治的決断を下すなら、両国はいくらでも新しい未来を共に切り開いていける」と言明したのだ。これは、明らかに、首脳会談に対するゴーサインである。普通、外交慣例として弱体化した政権とは首脳会談は避ける。その後の実行力が保障されないからである。岸田首相も9月に総裁選を控え、衆議院解散も待ち構える中、政治資金問題で支持率が低下、国民的人気もない。北は、逆に岸田政権の弱みに付け込んで利を得ようとしている。米日韓安保体制にくさびを打つため日本を取り込む作戦である。岸田首相は、拉致問題の解決で政権の浮揚を狙っている。どちらも同床異夢と言えるが、東アジアの平和と安定のためには、日朝国交が望ましい。北朝鮮を暴発させないため、時には「融和政策」が効果的である。

首脳会談成就のためには、日本側が拉致問題など障害を持ち込まないことと、条件付きであるが、修辞用語とみなせる。まずは、両首脳がひざを交えて話し合うのが、問題解決の第1歩である。北の窮状に対し、在庫の古米100トンぐらい提供する、人道支援するといえ、北は、首脳会談に本気で乗ってくると思われる。今こそ、危機を迎える東アジア情勢を複眼的思考でとらえ、大胆な外交戦略が日本に求められている。チャンスは2度とない。

「ここがロドス島だ。ここで跳べ！」

# 【南の窓】

## 10日間で消えた「第3極」の夢

編集部

韓国民は、トップの大統領を5年に1度、直接選挙で選ぶ。また大統領選とずれる時期に4年に1度、選挙区と比例の2票を投じて国会議員を選ぶ。こちらは日本と同じく「総選挙」と呼ばれるが、大統領制なので国会議員の役割は補助的だ。だが、民意は反映する。

投開票が4月10日に迫る今回の国会選挙は、保守政権の尹錫悦大統領にとり任期半ばの折り返し点に当たる。2026年に次の保守系大統領に引き継げるかどうか、革新系第一野党「共に民主党」により国会議席の過半数が抑えられている現在の「ねじれ解消」を実現できるかどうか、懸かる。

### 対立構図に飽き足らぬ無党派層

「南南葛藤」といわれるように韓国内では保守、革新両陣営の厳しい政争が続いてきた。

冷戦構造の中で「味方か敵か」がまず問われ、反对者に対する当局の厳しい処罰や社会からの締め出しが日常化した。軍出身者が効率重視のトップダウン「開発独裁」を推進して中進国となった半面、人権無視が目立った。

是正を求める急進的な反政府行動が続き「運動圏」といわれる革新勢力が育った。

保守対立は国会内外での運動を活発化させ、ジェンダー問題などの国際比較で韓国は日本を上回る成果を上げている。

不毛な保革政争に飽き足りない有権者の中に、「第3極」に期待を寄せる動きが見え始めた。これを受けて、既存与野党からの離脱組が合流して新党を創る動きとなった（前月1-2月合併号「南の窓」参照）。

第一野党「共に民主党(民主党)」内では、尹錫悦候補に李在明候補が小差で敗れた後、李在明(イ・ジェミョン)代表をかつぐ主流の「親李派」と他の「非李派」の内紛が続いた。文在寅(ムン・ジェイン)前政権で首相を務めたベテラン政治家の李洛淵(イ・ナギョン)氏は「非李派」とされ、今年1月、仲間とともに民主党を離れて「新しい未来」という新党を立ち上げた。

李洛淵氏が強調したのは「(革新と保守両陣営による)亡国的な独占状態の政治構図を打ち砕く」という「第3極」の必要性だ。

一方、政権与党の「国民の力」サイドからは、元党代表だった38歳の李俊錫(イ・ジュンソク)氏が1月20日に「改革新党」を旗揚げした。



写真は「改革新党」結成式で党旗を振る李俊錫代表

李洛淵、李俊錫両氏が共同代表になった2新党を1つの党に合併する合意ができたが、2月19日、国会選挙の指揮や政策決定などを李俊錫氏に一任する動きが突発し、李洛淵共同代表は猛反発した。

翌20日の緊急記者会見で李洛淵氏は合併の解消を表明し、支持者たちに「新党統合の失敗で失望させた」と陳謝、自らの「新しい未来」の旗の下で総選挙に挑むと説明する事態に追い込まれた。

李洛淵氏は1990年代に東亜日報の東京特派員を務め、知日派の中道左派政治家として将来の大統領候補と見る向きもあった。だが統合失敗は痛かった。「首相経験者は大統領にはなれない」というジंकスの壁は高かった。

結局、「第3極」構想は10日間だけの夢に終わり、「保革の対立構図は簡単には解消できないだろう」という、もう一つのジंकスも打ち破れなかった。

さらに前回2020年総選挙の前に導入された、比例候補だけを擁立する系列ミニ政党、いわゆる「衛星政党」として「革新党」が生まれたという指摘が出た。

比例制は、小選挙区での議席獲得が難しい小政党が議席を取りやすい仕組みとして導入された。有効得票数の3%以上か、選挙区の当選人が5人以上という条件付きだが、予野の大政党が衛星政党を通じて実質的に議席を積み増す道を開いた。

### **8カ月ぶりに大統領支持率4割超**

韓国の世論調査会社リアルメーターは2月26日、19日から23日にかけて成人2504人に実施した調査で、尹錫悦大統領の支持率が41.9%と、約8カ月ぶりに4割を超えたと発表した。

保守系与党「国民の力」は1週間前より上り43.5%、逆に革新系最大野党「共に民主党」は下がって39.5%だった。それ以外の政党では、「革新党」が4.3%など。

3月1日に発表された韓国ギャラップ社による別の世論調査では、やはり大統領支持率は8カ月ぶりに上昇、不支持率は下落した（それぞれ39%と53%）。ギャラップ調査では、尹錫悦大統領を支持する理由で1年近くトップを占めていた「外交」に代わり「医学部の定員拡大」問題が浮上した。

この大学医学部の定員増は、韓国政府が地方の医師不足解消のため打ち出した方針。研修医8000人以上が集団で辞表を提出する動きにつながり、ソウルの大病院で研修医が4割を占めているので医療現場が混乱した。ソウル集中の弊害、反対闘争の進め方への国民からの反発もあって、政権側のこわもて対応が今のところ受けている。

半面、「金建希(キム・ゴンヒ)大統領夫人を巡る問題」を大統領不支持の理由に挙げたのは、ギャラップ調査で6%にとどまっている。大統領夫人が高級ハンドバックを韓国系米国人牧師から受け取っている姿が盗撮され流出したスキャンダルだ。今のところ、朴槿恵大統領を追い落とし文在寅政権を誕生させたキャンドルデモのような事態に拡大するかどうかは分からない。

国会議員選挙が近づくにつれて、インターネット上で尹錫悦大統領とされる偽動画「良心告白演説」が流れ問題になった。

北朝鮮は南北統一問題で韓国政権を相手にしない姿勢を憲法に書き込み、強硬姿勢を強めている。少数だが「北朝鮮に親近感を表明してきた」勢力の行方も不透明だ。

国会議員選挙の投票日に向けて、まだまだ気が抜けない動きは続きそうだ。

## 【北の窓】

# コロナ禍明けにロシアから観光団

## 編集部

### 大きな期待を背景に

北朝鮮問題専門の英文オンライン誌「NKニュース」は2月9日、ロシア人観光客97人を乗せた高麗航空のツポレフTu154旅客機がロシアのウラジオストク空港から平壤に向け出発したと報じた。首都・平壤のほか、東海岸の元山(ウォンサン)カルマ観光地域、馬息嶺(マシニョン)スキー場を12日まで巡った。新型コロナ流行期間中に国境を閉じていた後の初の外国人観光団の受け入れ。ロシア人ジャーナリストが大半を占め、北朝鮮側が外貨獲得への大きな期待を寄せていることが分かった。

### ロシア大使館が撮影した平壤国際空港に到着したロシア人観光団一行



北朝鮮は昨年9月に金正恩国務委員長がロシア極東部を訪れプーチン大統領と首脳会談を開いた後、崔善姫外相が今年1月15日から17日にモスクワでラブロフ外相と協議後にクレムリンでプーチン大統領に金正恩委員長の親書を手渡した。ロシア大統領府報道官は「国際問題で意見を交わし、機微にわたる問題を含むすべての分野で関係のさらなる発展を目指す」と述べた。

朝ロ関係は深まっており、幅広い分野で関係閣僚や団体間の協力協定が相次いで結ばれている。観光振興もその一環だ。ロシア選挙後の年内にもプーチン大統領が訪朝するかもしれない。

ジャーナリストなどが参加した今回の観光団の参加費は、往復航空料金や北朝鮮内航空券などを含め、観光客1人当たり750ドル(約11万2500円)。

平壤に到着して1泊後、金日成広場、凱旋門、チュチェ思想塔などを巡ってから、馬息嶺スキー場へ向かったという。

参加者は「NKニュース」の取材に「まずまずの値段。スキー場のホテルで特別料理、プール利用料、マッサージ料金として追加で計100ドル払った」「現地での費用はスキー場の2日間のリフト券、土産物などだったが、120ドル以下だった」と答えていた。

ロシアでよく利用されているメッセージ交換ソフト(SNS)「テレグラム」に寄せられた写真を何枚か紹介する。

「NKニュース」が紹介したロシア人観光客の写真は以下のページから

<https://www.nknews.org/gallery/tracing-the-journey-of-north-koreas-first-tourists-in-years-in-photos/>



馬息嶺ホテルの受付カウンター



ロシア沿海州からは次の北朝鮮観光団も間もなく出発する予定だ。だが「トルコなどに比べて観光的魅力はいま一歩だ」「海岸リゾートも沿海州とあまり大きく変わらない」など声も寄せられたという。期待通りに観光振興が進むかどうかは未知数なようだ。



## \_\_ロシア韓国とロシアが相互非難

ロシアのウクライナ侵攻が長引くなかで、朝口密着化は兵器輸出や制裁回避につながる複雑な問題を引き起こす。

## 中国は「火中の栗は拾わず」

国連安保理では1月9日、ロシアが北朝鮮のミサイルをウクライナ攻撃に使ったと非難する声明が48カ国により発表された。拒否権行使を避けて安保理決議を求めなかった。ロシア国連大使や北朝鮮は否定した。

ウクライナのハルキウに着弾したミサイル文字で北朝鮮製とされた。

韓国の尹錫悦大統領は1月31日に北朝鮮を「先制核使用を法制化した非理性的集団」と非難。ロシア外務省のザハロフ報道官が「偏向的発言」と批判。これに対し韓国外務省高官はジノビエフ駐韓ロシア大使を呼んで「無条件に北朝鮮をかばい韓国の首脳発言を無礼な言葉で非難したのは遺憾だ」と厳重に抗議した。

一方で2月7日には平壤で、マチュゴラ・ロシア大使がタス通信に「米国が朝鮮半島地域で挑発的な行動をとれば、北朝鮮がさらなる核実験を敢行しかねない」と発言した。

2月14日に韓国が北朝鮮と友好的な関係にあったキューバと国交を結んだと発表した。だが南北朝鮮は1991年に国連に同時加盟しており、欧米の外交官が平壤に再び戻りつつある状況へのチェック機能はあっても大局が変わるとは思えない。

注目されるのは米紙ニューヨーク・タイムズが2月5日に匿名の情報当局者の話として報じた北朝鮮に対する制裁解除の動きだ。北朝鮮がロシアの金融機関に預けていて国連制裁で凍結されていた3,000万ドル(44億4000万円)のうち900万ドルについて、ロシアが最近、凍結解除の措置をとったという内容だ。

中国税関総署は1月18日、2023年の北朝鮮との貿易総額がコロナ禍前2019年の82%に当たる22億9538億ドル(3400億円)と発表した。国際社会から制裁を受けている「仲間」である朝口と、中国とは立場が同じではない。

2月23日に朝口関係をめぐって米中の関係当局者がビデオ会談を行った。米務省のジュン・パク国務次官補(東アジア太平洋問題担当)と、中国の劉曉明・朝鮮半島問題特別代理だ。中国側は、米側が北朝鮮説得を求めたのに対し、朝鮮半島で平和と安定を維持することが地域の共通利益となるとの従来の立場に固執(ワシントン発ロイター通信)。

経済展望がはっきりしない中で、中国はあえて「火中の栗を拾わず」静観し続けるかもしれない。核実験再開の可能性を平壤駐在のロシア大使がほのめかすのも、北朝鮮当局者の立場を代弁する外交カードの一種なのだろう。



## 【寄稿・随筆】

# 日本で就職を目指す韓国人の強みとは？

一般社団法人・東北亜未来構想研究所 (INAF) 理事

慶熙大学校アジア太平洋研究センター日本学研究所首席研究員

堤 一直

### コロナ前に戻る勢いの日本就職熱

日本で就職する韓国人が増えている。2024年2月の韓国産業人力公団の確定値によると、コロナ禍前の2019年の2,469人から、2020年に1,220人、2021年に586人、2022年に1,154人、2023年に1,292人と推移している。後は2,000人まで回復するかどうか注目される。

もちろん、本人らにとっては国内の就職状況が良くなり母国で働けるのが最善だろうが、日韓の企業・社会の架け橋が増えていくことは、両国にとって好ましい。

この数値を知って、筆者は思わず2019年8月から約1年間の韓国の大学での勤務経験を思い出した。家庭の事情で急遽帰国を余儀なくされたことは残念だったが、何人かの韓国の若者の日本企業への就職を後押しできたことは何よりであった。

日本と韓国は、とてもよく似ていると言われる。そもそも、両国の言語は語順が一緒で、かつ「てにをは」に当たる助詞もあるといったように、文法が類似している。世界中で一番日本語がうまい外国人と言えば、かつてはコリア語を母国語とし、漢字も学んでいる中国の朝鮮族の人々と聞いたことがあるが、現在の中国朝鮮族の若者はコリア語が母語でない人が増えている。

### 韓国人の強み、兵役経験

共通点ばかり挙げたが、ここで韓国人の若者ならではの特徴を筆者の経験も交えて紹介したい。それは兵役経験である。韓国では賛否両論ある義務兵役だが、日本企業は兵役を終えた韓国人男性を歓迎する傾向があるようだ。理由は兵役を通じて身に付けた協調性と忍耐力とのことであった。これら素養のおかげで、他の外国人と比べて、韓国人は短期間で離職することはないと聞いたこともある。

筆者はある韓国人学生の志願理由書を作成したことがある。その学生は兵役期間、海軍に所属していた。海軍が志願制であったことを思いついた私は、「自ら海軍に志願し、海軍で身に付けた協調性や、他の軍種と異なる特徴を強調するように」と助言した。

その学生は、面接のときにも面接官と海軍での逸話で盛り上がり、無事に内定を獲得した。他の韓国人学生の就職指導の経験も含めて思うのは、「日本企業での就職活動の際に兵役経験が強みになるということに気付いていない韓国人学生が多い」ということである。

### もし韓国人が応募してきたら

なので、日本企業の方で採用に関わることになり、そのとき韓国人男性が応募

してきたならばぜひ兵役経験について聞いてみることをお勧めしたい。話が弾むだろうし、また応募者の人となりをよりよく知ることができるはずだ。陸軍を除く、空軍、海軍、海兵隊は志願制なのでなぜ志願したか理由を聞いてもいいだろう。空軍入隊の際には英語力など座学の成績も重視される。また海軍は、陸軍、空軍に比べより固定された人間関係の中でいかにかうまく過ごしていくかが問われる。そして、海兵隊では相当の覚悟が要求される。

私が韓国の大学で働いていたときの上司の一人は海兵隊で兵役生活を送った人だった。エネルギッシュだが、優しい性格の持ち主で、教えてもらわなければ海兵隊出身ということは分からなかった。ある日面白いことを教えてくれた。

それは、海兵隊の訓練では真冬に海水パンツを着けただけで隊列を組んで外を走り、そして海に飛び込むという「試練」があるということだった。職場でその話を聞いたとき、室内は寒くはなかったのだが、なぜか身体が震えるような気がした。

陸軍以外を挙げてきたが、陸軍も当然甘くはない。また、健康上の理由から軍服務ができない者も公共機関で勤めることになるので、協調性をきちんと身に付けている。

さらに、女性に兵役義務はないが、このように協調性と秩序を重んじる社会の中で育ったせいか、凜とした雰囲気を感じられる。

韓国軍の部隊を訪問する機会もあったが、兵役中と思われる若者が外部からの来客と見てみな大声で「忠誠！」と敬礼

してくれるのではないか。思わず背筋が伸び、またもし韓国に生まれていたらこのような環境で1年半(陸軍の期間：各兵種の中で最短)堪えられるだろうかと自問してしまった。

## 「自ら考えられる」兵士の強さ

兵役の長所ばかり挙げてきたが、短所もあるようだ。短所についても、海兵隊にいたその上司から聞いた。記憶が定かではないが、その上司に思わず、職業軍人になろうとは思わなかったのかと尋ねたら、自分の頭で考える人間になりたかったという趣旨の答えが返ってきたと思う。

だから、韓国人が就職してきたら、少し早いかなと思っても、自分の裁量でやれる仕事を任せてしまうのもいいだろう。

それに加えて、耐えすぎてポキンと心が折れてしまわないように、会食などで遠慮なく本音を話すような配慮もお願いしたい。「辛いことがあったら食べたり、飲んだり、私たちには『プルダ(解く)』の文化があるんです」そんな韓国人の友の言葉が忘れられない…

### 参考

한국산업인력공단\_해외취업 통계정보  
<https://www.data.go.kr/data/15083272/fileData.do>

堤さんは、以前当研究所で「東アジア・レビュー」印刷版の編集に携わってくれました。感じたことを「随筆」として不定期に寄稿いただく予定ですので、ご期待ください(編集部)

## 【編集後記】

新刊紹介「金正恩の革命思想」 平井 久志 著  
編集部 (作)



東アジアレビュー 2024年3月号  
第34巻・第204号 通巻 202号

2024年3月5日 発行

発行人 姜英之

編集人 小野田明広

発行所 一般財団法人 東アジア総合研究所

TEL 03-6231-2361

FAX 03-6231-2862